

里海創生支援事業

課題

生物生息環境の悪化(干潟・藻場の喪失、赤潮や貧酸素水塊の発生)

原因

物質循環の低下(漁業の衰退)

海の環境に対する国民の無関心

陸域と沿岸域の一体性について国民の理解を深めるとともに、人間と海との共生を推進し、人間の手で管理がなされることにより生産性が高く豊かな生態系を持つ「里海」の創生を推進する。

①モデル海域(里海10選)の選定

- ・選定基準の策定
- ・モデル海域の公募、選定(NPO、自治体からの提案)

モニタリングサイト1000などとの連携

②モデル海域での現地調査

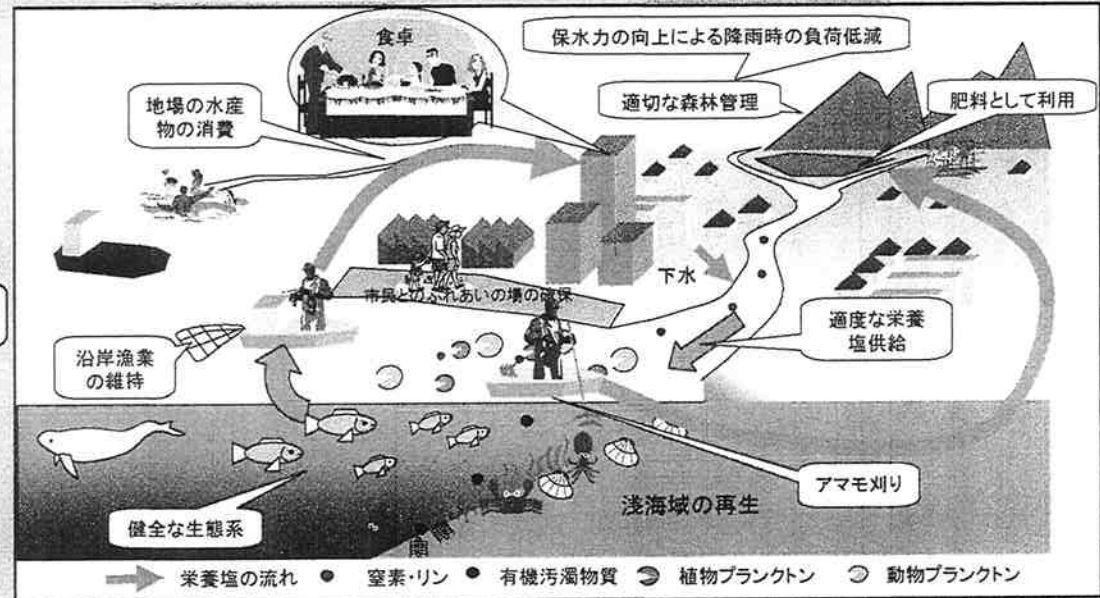
- ・物質循環の調査(水質、生物調査)
- ・普及啓発を兼ねた市民参加型のモニタリングや植林活動等の実施

③里海づくりマニュアルの作成

- ・現地調査結果より作成
- ・他の地域での取り組みの促進

④シンポジウムの開催、広報等の実施

⑤アジアへ「里海」の概念を情報発信



期待される効果

地域活性化

沿岸域の環境保全

アジアへの日本の貢献

生物多様性の保全

水産資源の確保

豊かな沿岸域の再生に向けた取り組み事例

漁業者の森づくりの推進 (兵庫県 瀬戸内海)

漁業者自らが森林で植樹を行う「漁業者の森づくり」を漁業者全体の運動として盛り上げるとともに、県民に幅広く漁場環境の保全への理解と協力を得ることを目的に実施。



藻場づくり活動推進事業(愛媛県 瀬戸内海)

干潟等において、県中予水産試験場が中心となり、漁業者をはじめ小学生、一般県民の参加を得て、アマモ、ガラメ、アラメ等藻場の造成や、啓発活動を実施している。



①小学生・一般県民への啓発・ポッド作成



②漁業者・ボランティアの協力によりポッドを設置



③設置後の状況(コウイカの産卵を確認)



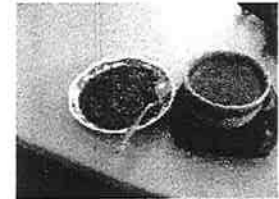
アカモクを利用した水質改善(宮城県 松島湾)

アカモクを栽培し、窒素・リンを回収することにより、水質改善を目指す取り組みが実施されている。(環境技術実証モデル事業により実証試験を実施中。)

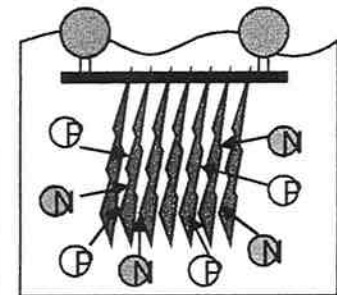
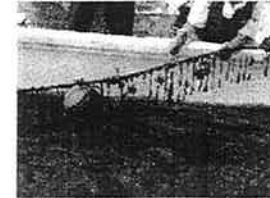
②NP系外取り上げ



③消費



①栽培・NP取り込み



21世紀環境教育プラン

～いつでも、どこでも、誰でも環境教育AAA(Anytime, Anywhere, Anyone)プラン～の展開

- ・ 教育基本法及び学校教育法に「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」が新たに規定
- ・ 戦略7に位置づけられた「21世紀環境教育プラン～いつでも、どこでも、誰でも環境教育AAAプラン～」に基づき、生涯にわたる質の高い環境教育・学習の機会の多様化を図る施策を関係省庁と連携して展開。

展開イメージ図



※21世紀環境教育プランは各省が連携して実施するものであるが、上記は環境省及び文部科学省の平成20年度予算要求中の主な内容のみ抜粋して掲載。

21世紀環境教育プラン関連の新規予算

21世紀環境教育AAAプラン推進事業(55百万円)

発達段階に応じた環境教育の「ねらい」等策定に関する調査研究

学校での環境教育の体系化を図るため、学校・学年といった発達段階に応じた環境教育の「ねらい」を策定するとともに、環境分野・領域別の具体的な学習内容を研究し、その成果を学校現場に示す。

21世紀子ども放課後環境教育プロジェクト

文科省と厚労省が推進する「放課後子どもプラン」に連携し、学校の正規の授業外の時間に、地域の様々な主体の協力を得ながら、学校の余裕教室等を活用した環境教育・環境学習を実施する。

など

「五感で学ぼう!」子ども自然体験プロジェクト 26百万円

総務省、文部科学省、農林水産省との連携事業である「子ども農山漁村交流プロジェクト」の一環としての農山漁村での自然体験や国立公園内での自然保護官の業務体験といった五感で学ぶ原体験を推進する。